実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成年度	令和７年度
助成団体	公益財団法人日本セーリング連盟
事業細目名	タレント発掘・一貫指導育成
事業名	有望選手発掘・育成事業
助成金額	99,272,000 円

令和７年度「将来性を有する競技者の発掘及び育成活動助成」を活用し、公益財団法人日本セーリング連盟が実施する「有望選手発掘・育成事業」の実施状況について調査を行いました。

本事業は、令和７年４月１日から令和８年３月 31 日の期間において、才能のある若手選手を発掘し、WS ユースワールド、種目別 Jr.ワールド等での金メダル獲得及びオリンピックで活躍する選手の育成を目的とした「HOPE 育成プログラム」活動に対して支援を行うものです。

今回の調査では、「World Sailing ユースワールド大会」及び「種目別ユースセーリング世界選手権」の個別合宿を対象に、若手有望選手による水上練習を視察しました。

■助成の意義

本助成により、選手の財政負担を一定程度軽減され、ナショナルコーチによるマンツーマンの指導を、選手の居住地近くの活動拠点で定期的に受けることが可能となりました。それにより、日常的なトレーニング環境の質が向上し、選手の技術向上に寄与しているとのことです。

また、各クラスの選手が一堂に会する HOPE ユース・HOPE 合宿では、業界トップクラスのトレーナー、栄養士をはじめとする各分野の専門家を招聘することが可能となり、質の高い講義や指導が実施されています。これらの活動は、競技力の向上にとどまらず、人材育成の観点からも計画的に進められているとのことです。

これらの取組により、若手有望選手の育成を「HOPE 育成プログラム」として体系的に構築することができたほか、さらに蓄積されたノウハウを組織内で円滑に共有・活用できる体制も整いつつあるそうです。

■事業効果を高めるための取り組み

境港や座間味等の活動拠点においては、県や地方自治体、地元企業と連携し、競技艇やコーチボートの配備や整備、宿舎の提供などを受けているとのことでした。こうした地域との協働により、選手やスタッフが集中して合宿に取り組める環境づくりにも力を注いでいるそうです。

■所感

合宿に参加していた選手・コーチの方々は、一度海へ出ると練習終了後まで陸へ戻らず、8 時間以上を海上で過ごすことがあるそうです。選手たちは、常に変化する気象条件や波の状況を読み取りながら、定められたコースをいかに速く回るかを追求しており、過酷な状況下でも真剣に

練習へ取り組む姿が印象的でした。セーリング競技を間近で見ることで、そのダイナミックな魅力を実感し、優れた育成システムやそこを支えるコーチ・スタッフの方々の情熱を感じました。

本事業を通じて、若手有望選手がさらに経験を積み、国際舞台での活躍につながることを期待しています。

（令和 7 年 10 月 23日 往査）

(写真）合宿の様子 （左：練習の模様　右：ハーバーの様子）	
	